

2015年度事業報告

1. 仮認定NPO法人格の取得

より信頼性の高いNPO法人として認められることと、税の優遇措置がとられる認定NPO法人格の取得をめざし、仮認定NPO法人の申請をし2015年3月30日付で、認証がおりました。

仮認定の期間は3年間。2017年に本認定の申請を行う予定です。実績の判定期間は、2015年度、2016年度の2年間。本認定には、過去2年にわたり100名以上の寄付者・賛助会員がいることが最低条件です。その他にも法令遵守等クリアすべき認定要件は多くあります。

今回の仮認定にあたっては、必要書類をきちんと保管し、なおかつすぐ出せるようにすることを痛感させられました。狭いコッペにとっては場所の確保が頭の痛い問題ですが、できるだけ整理したいと思います。

寄付者・賛助会費をいただいた方には、専用の領収証の発行が必要になります。そのコピーを取っておくことが、100名以上の寄付者・賛助会員がいることの根拠書類になります。また、事業報告も通常のNPO法人よりも種類・量が多くなります。

もちろん仮認定を受けたからと言って寄附金がそのままで増えるわけではありません。仮認定を受けたということでの社会的信用をPRし、寄附金を募る努力が必要です。2016年3月27日は、アエル2Fアトリウムで行われた認定NPO法人（仮認定を含む）PRイベントにも出席しました。

2015年度の会員の状況ですが、2016年3月31日現在、賛助会員は名簿上132人、実際に入金頂いた人は108人となっています。（正会員数は、24名です。）安定して100名を超えるには、入金して頂く人が、130名程度欲しいところです。知り合いに声を掛けて頂きたいと思ひますし、未入金の方には麦の穂の発行時に会費の納入のお願いを毎回するようにしたいと思います。

2. あがいんセットのふるさと納税返礼品への採用

県内7事業所が連携して商品開発に取り組み、2012年度に誕生した「あがいん-again-セット」ですが、一昨年に創業スクエアから支援を受け、コンセプトを「“宮城のテータム”をあがいん♪」とし、「宮城産」にこだわることで、手土産・ギフトとしての価値を上げ、パッケージもリニューアルしました。

その結果、東京の横河電機様の株主総会への手土産として引き続き採用されるなどしています。

また、仙台市においても2016年度よりふるさと納税制度を行うことになり、寄付者に対する返礼品の一つにあがいんセットも採用されています。コッペのクッキーセットも同様に採用されています。ふるさとチョイスというサイトに載っていますので是非ご覧ください。

ただ、当然ながら仙台市といえば牛タン・笹かまぼこと名産品はあるわけで、それらの商品と同等に掲載されているので、実際に寄付された方が、あがいんセット並びにコッペのクッキーセットを選んでくれるかは難しいところです。

現在コッペの他に、あがいんチームに参加している事業所は以下の通りです。

すまいる作業所 仙台もぐらの家 グループゆう わはわ美里 わはわ味明
わはわ フリースペースソレイユ はびかむ ぱれったけやき宮城野

製造・支援に関する互いのノウハウ・販売の情報などを共有しながら、今後も協力しあいたいと思ひます。

3. 就労継続支援B型の直接利用の問題について

支援学校の卒業予定者や就労経験のない人で就労継続支援B型の利用を希望する人は、就労移行支援事業所等での就労アセスメントを受ける必要があることとなりました。現在の障害者総合支援法では、就労継続支援B型の利用対象者は、一般就労がうまくいかなかった人となっていて、就労経験のない人は直接B型を利用できないとされています。今までは現状とかけ離れているので経過措置があり、そういう人も直接利用できていましたが、2015年の4月から経過措置がなくなり、法律の原則が適用されています。

法律が障害者の一般就労を後押ししたいという側面をもっており、就労継続支援B型の利用対象者を限定しているということは理解できますが、しかしながら、どの人にも一律のこの原則を適用することには疑問があります。

一つめは、当事者の自己決定・自己選択との関係です。

当事者の自己決定・自己選択を尊重することは、障害当事者の権利を守ることであり、支援を行う上でも一番大切な事です。B型を利用することを希望していることが明確な当事者にとって、一律に就労アセスメントを行うことは、当事者の意向を無視した制度の一方的な押し付けです。

二つ目は、就労アセスメントを行う対象者です。今回はB型を希望する方だけになっています。しかしながら、仙台市は、「ご本人の能力等に基づいて最適な「働く場」を模索し」「自らの能力に気付くことについては第三者的な視点も必要」と説明しています。それならば、障害者全員に可能性があるはずでありB型希望者のみならず、他の事業体系を希望する方にも、就労アセスメントを行うべきです。

三つめは、就労アセスメントの実効性の問題です。3日～2か月の就労アセスメントの期間とされていますが、その短い期間でそれまでその人と会ったことのない人が、どれだけのことができるのでしょうか。長くその人と付き合いしてきた支援学校の先生以上の判断ができるのでしょうか。

今回の就労継続支援B型の直接利用の件は、当事者の自己決定・自己選択との関係で大いに問題です。法律の精神は尊重しつつも、実態に即した制度の運用を求めたいと思います。

この問題に関しては、みやぎアピール大行動実行委員会や宮城県障害者小規模施設連絡会仙台ブロックのメンバーとともに仙台市に対して申し入れ話し合いを行いました。

4. 福祉のアンテナショップ構想について

以前、NPO法人桑の木がお店をやっていた青葉区中央の620駐車場となりにあるビルの1階を賃貸し、福祉事業所のアンテナショップを運営するため、NPO法人桑の木・みどり工房若林・アトリエソキウス・みやぎセルフ協働受注センターの皆さんと検討を重ねてきました。

コンセプトは、福祉のアンテナショップ～小物と焼菓子のお店～。お店の名前は、1 / f (エフブンノイチ) と決定。まちむすび助成金とろうきん復興支援助成金を活用してお店の改装等を進め、2016年5月16日(月)にオープンすることになりました。

今後はホームページも活用し、エフブンノイチを拠点に商品の販売・情報発信を行います。

5. 就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、252日／年、利用者延べ数は、3,074人となっています。長期欠席の方もいたため延べ人数は減っています。コッペの定員としては、20名。在籍は16名です。それを支えるスタッフは、常勤4名、パート6名です。それにコッペショップを支えるメンバーの方々、区役所販売等

を手伝っていただけるボランティアの方々に、コッペの運営に協力して頂きました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,143万/年（仕入れ販売約263万を含む）、月平均178万となっています。2014年度の売り上げに比べ40万/年ダウンしました。相変わらず注文の多い月と少ない月の差も大きく、それに対して有効な対策が打てていないのが現状です。

今回改めてコッペのクッキーをどんなところで売っているのか皆さんにも確認してもらおうと思い整理してみます。その中で、あんなところこんなところへも売っていけるのではということをご提案してもらえればと思います。

* 日常的に障害メンバーも販売に行っているところ

月2回 台原老人福祉センター エマオ・マルベリー・杜の伝言板ゆるる
みやぎNPOプラザ・宮城野区社協・すぴか ジャパンケア萩の町

月1回 DNP東北

* 障害メンバーだけで配達に行っているところ

ひこ・DTSコーヒー・中島病院・るーぷ

* 県内で販売して頂いているところ

ヘルシーハット・わらしべ者西多賀工房・横田や・クロワッサンの店・らべんだあ
ピボット・バラライカ・菜の花村・田舎郡東北村 等
大学生協 川内・文系・星稜・宮城学院・宮城大学

* 売り上げベスト5

あいコープみやぎ 大学生協 みやぎセルフ協働受注センター
ヘルシーハット 菜の花村

* 発送

つながりの家（石川県） おにっこハウス（埼玉県） カフェ・ビーンズ（南相馬市）
共働サービスたねや（札幌） ぐりんぴいす（室蘭） むつみ作業所（御殿場市）
ショップはなみずき（静岡市） あしたや（多摩市） ミヤココーポレーション（東京）
きょうされん 大地を守る会
ポラリス（山元町） ワタリス（巨理町）

* 市民センター

10/4（日）東部ふれあい祭り（東部市民センター）
10/4（日）東中田市民センター ソレイユ販売委託
10/24（土）10/25（日）泉中央市民センター
10/24（土）10/25（日）高砂市民センター
11/7（土）福室市民センターまつり
11/8（日）松陵市民センター
11/14（土）Mフェス（宮城野区中央市民センター）

秋には市民センターのまつりが集中しています。市民センターは、事前の実行委員会にする必要があります。

* シルバーセンター 月1回

* 区役所・文化センター 平均月2～3回

*B-NETサポーター

現在の会員数 コッペ39名 事務局34名 中山26名 99名

*保育所

*おたのしみパン会員 25名ほど

*新商品 ビスコッティ NPO法人ポラリスとの共同商品

5本入り 200円

いちごクッキー 宮城産のいちごを使用 2016年5月正式発売

*規格変更 レズンジャンボ・くるみパン 通常の120円売りのパンと同じ値段で売れるように変更。レズンは、ツイストの形のみとした。

③ 訓練等給付費収入

2015年度は2,518万円ほどとなりました。前年度より320万上がりました。目標工賃達成加算に加え、目標工賃達成加算指導員の加算を申請したことが大きな増加につながっています。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、最高で77,000円最低20,000円、平均約52,000円となっています。

昨年とほぼ同じです。B型の工賃としては県内で3番目ぐらいです。

5月より新しくメンバーが1名加わりましたが、2月に1名の減となっています。

⑤ミーティング

会議は夕方には中々持てないので、月・水にペーパーを作り、全員で行うようにしました。普段コッペに来られない方にもコッペの日常がよくわかるのではないかと思います。

⑥コッペショップ

パンに関しては売上の中でもショップが重要な位置をしめています。春・秋のセールの他、バレンタイン・ホワイトデーセール等も行いました。

春・秋のセール 5/21 (木) 5/22 (金) 10/15 (木) ~ 16日 (金)

バレンタインセール ホワイトデーセール

杜の都プレミアム商品券を、コッペでも使えるように平成商興会を通じて申請しました。20万ほどの売上がありました。

また、ショップカードを作り、ショップカードを見せた場合5%引き(お店のみ)(一割引き券の割引は従来通り)とし、少しでもお得感をつけるようにしました。

ショップの売上は、329万/年。月平均27万となっています。

⑤ ホームページ

ホームページそのもの更新はできていませんが、フェイスブックは活用しています。主にイベントの告知等で活用しています。麦の会ページへの「いいね」は150人となっています。

⑥ 放射能検査

みんなの放射能測定室でとととに検査に出しました。検出限界は10ベクレルでいずれも不検出となっています。今後も定期的に検査に出し、安全性を確かめます。

原発に対しては、食品の安全という面でも反対の運動に協力していきます。

⑦ 食品表示

法律が変わり、栄養成分表示の義務付け等、現在の表示から変更する必要があるため、ラベルプリンターの更新を検討し、新しく導入しました。稼働はこれからになります。栄養成分表示は2016年度以降変更していく形になります。

- * 今年の4月から施行されている食品表示基準 ・5年の猶予期間
- ・栄養成分の表示 ・アレルギーの表示 ・原材料、添加物の表示 区別して表示

⑦ レクリエーション・研修

- ・5月9日（土） 田植え体験
- ・5月30日（土）・31日（日） 共同連東北ブロック交流会 山形県鶴岡市
- ・一泊旅行 7月10日（金）・11日（土） ハイルザーム栗駒
- ・いちえさん食事会招待 6月28日(日)・11月22日
- ・楽天招待 ゴールドマンサックス証券様より（宮城県社協を通じて）
協賛企業様より（東北福祉大を通じて）

ご招待は「ありがたい」ことです。あたりまえのようにいくのではなく、きちんと感謝の気持ちをもって楽しんできてください。

- ・新年会 1月8日(金) フクモト

【6】雇用関係について

現在のコッペの収支では、全員と雇用関係を結ぶことは難しいため、就労継続支援B型のままで、出来る人から雇用を結ぼうという方向で今年も進めました。

条件を改めて確認します。以下の満たす人で、希望する人と雇用関係を結んでいます。

- ① 8年目以上
- ② 20時間以上の勤務時間
- ③ 最低賃金の減額申請はする
- ④ 社会保険はかけない
- ⑤ 中退金は6000円でかける

* 社会保険について

仙台東年金事務所から、健康保険・厚生年金保険の資格調査あり。常勤の4分の3以上の時間数の場合は、加入しなくてはならないとの指摘。6H計算で5日は働いている人が対象になります。給与計算は6Hで行うが、お昼の他、休憩時間午前10分・午後10分の5.4Hで実働時間と報告します。次回の調査までには是正されていないと過去2年間分をさかのぼって納めなくてはならないそうです。

【7】理事会

計10回行いました。しかし、今年度も最近参加する人が限られています。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスで、理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらっています。もちろん強制はできませんが、色々な人に支えられているということが、組織を維持していくための大きなモチベーションです。理事会に出席するというのもその一つです。出来るだけ多くの人の参加をお願いします。

【8】 会員（3/31現在）

正会員 24名 賛助会員 132名 計144名（正会員3名増、賛助会員8名増）

* 賛助会員で、実際に入金頂いた人は108人

2年間会費の納入がない場合は、退会扱いになります

安定して条件をクリアするためにはさらに会員の増加が必要です。会員皆さんの声掛けを改めてお願いします。

【9】 社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ200部前後

2015年 5月 8月 11月 2016年3月

賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。

編集は持ち回りで担当して頂きたいと思います。また、原稿は随時募集中です。自分が書かなくとも、書いてくれそうな人に是非原稿を依頼して下さい。今年度の会報はいつもよりは（？）充実した内容をおとどけできたのではないのでしょうか。

【10】 NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。

給付費の請求事務は、もとなるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

当然のことながら、NPO法人フルハウスを構成するフリースペースソレイユとフルハウスグループの一員として、フルハウスの会議・春と秋のソレイユ祭りへの参加、互いの商品の販売等の協力をしています。

今年度は、ソレイユにおいて新たに「トレーラーハウス」を設置しカフェをする構想があり、それについての議論に参加しました。また、オープンにあたりカフェで使うコーヒーカップの寄贈する（アトリエソキウス製作依頼）こととしました。

ソレイユの運営状況も簡単ですが、報告します。

定員 40名

事業形態 就労移行支援（定員6名） 就労継続支援B型（定員28名） 生活介護（定員6名）

事業内容 お弁当の宅配（火曜日はカレー）

売上収入 19,520,939円

給付費収入 48,060,207円 総収入 68,907,815円

人件費支出 30,866,139円 総支出 71,374,853円

収支差額 △2,467,038円

平均工賃 約20,000円

運営内容自体は、以前からのソレイユの特色の地域密着型でアットホーム的な雰囲気を生かし、通ってくるメンバーも楽しそうに働いています。今年度はフルハウスも赤字決算でした。要因としては弁当の原材料費の高さや人件費が考えられます。ソレイユの良さを生かしながら、「経営」感覚ももっともって運営していく必要があります。

【11】 NPO法人共同連並びに東北ブロックについて

5月30日・31日に山形県鶴岡市にて、共同連マラソントーク&共同連東北ブロック交流会を行いました。なかなか活発な活動というわけにはいきませんが、せっかく立ち上げた東北ブロックですので、加盟事業所と連携を取っていきたいと思います。なお、共同連の全国大会は、9/12（土）9/13（日）札幌市にて開催されました。

最後に、麦の会として加盟して活動に参加している団体を載せます。

① NPO法人共同連

コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。
上記に報告した通り

② みやぎアピール大行動

11/1（日）アピール大行動 せんだいメディアテーク

障害者自立支援法の成立を契機に県内の団体で結成しました。障害種別の枠を超えてより良い制度の実現を目指し活動しています。

年1回の集会とアピール行進を行っています。また、年1回宮城県知事・仙台市長との面談を行い、要望を伝えています。

③ 宮城県障害者小規模施設連絡会

県内の小規模事業所の集まり。各種研修会（2月6日（土）研修会 てんかんについて）、わくわく音楽会などを行っています。仙台への要望活動を行っています。特に、わくわく音楽会（2016年2月13日(土)開催）は、みんなも楽しみにしているコンサートです。

④ 条例の会

仙台市に差別禁止条例が成立し、2016年4月に施行されました。条例を通して差別のない仙台にし、障害のある人がより住みやすい街にするよう活動しています。

⑤ みやぎセルフ協働受注センター

県内の販売事業のまとめ役。各種研修会も行っています。みやぎセルフは復興関連の予算を多く使っているため、来年度の事業縮小が懸念されたため、県内の事業所と協力して県への存続を働きかけ、2016年度も同様の活動が認められました。セルフ主催の主な販売会は以下の通り。

ナイスハートバザール仙台駅10/5（月）～8（木）

地産地消市場仙台いろは販売11/1（日）～11/5（木）

藤崎パンまつり11/5（木）11/6（金）11/7（土）

東北蘭展販売(夢メッセ) 1/28（木）～2/1（月）

セルフ販売（みやぎセルフ）3/9（水）～3/13（日）

⑥ きょうされん・きょうされ宮城支部

きょうされんでは通販サイト「TOMO市」を運営。コッペのクッキーも掲載されています。また、ギフトカタログ（各地の障害者事業所の商品が載っています）夏号には、コッペのフェアトレードクッキーセットも掲載されました。

宮城支部では、9月6日（日）きょうされん利用者部会を行い、他の事業所のメンバーとレクレーションを行ないました。

⑦ 全日本手をつなぐ育成会事業所協議会

親の会の全国組織。色々な情報や販売協力を頂いています。

⑧ せんだいみやぎNPOセンター

⑨ 杜の伝言板ゆるる

上記2つはNPOの支援を行うNPO。NPO関係でお世話になっています。

杜の伝言板ゆるるを通じては、毎年高校生の夏休みボランティア体験を受入れています。社会貢献という意味合いもありますが、コッペを知ってもらいたいですし、若い人がコッペに来ることは、受け入れる側でも楽しいことでもあります。